

令和 5 年 6 月 16 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2018～2021

課題番号：18H00633

研究課題名（和文）日本における西洋宗教美術受容史再構築の試み 16世紀から19世紀まで

研究課題名（英文）Reception and transformation of European Christian art in Japan: 16th-19th century

研究代表者

児嶋 由枝 (Kojima, Yoshie)

早稲田大学・文学学術院・教授

研究者番号：70349017

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,700,000円

研究成果の概要（和文）： 対抗宗教改革期（カトリック改革期）から西洋植民地主義がピークに達した19世紀にかけての宣教美術研究は、中南米やインド、そして東アジア、特にフィリピンと中国を対象として大きく進展している。これに対し、日本におけるそうした西洋宗教美術の受容研究はいまだ十分と言えなかった。

本研究は、こうした状況をふまえ、日本の西洋宗教美術受容を国際的な宣教美術研究の展開という文脈の中において包括的に考察することを目指した。そして、「かくれキリシタン」美術や19世紀の宣教美術にも焦点をあて、日本における西洋宗教美術受容の独自性、ひいては日本の外来文化受容にみられる独自性についてある程度明らかにすることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本における西洋美術受容については従来、明治期の文明開化・欧化主義を基調にした政府主体の洋画導入を中心に議論されることが多い。そして、安土桃山時代から江戸初期における洋風画や江戸期の蘭画を対象とする研究は、いわば挿話のように個別事象として論じられる傾向にある。これに対し本研究は、16世紀から19世紀にかけての西洋宗教美術の受容とその変容という、もう一つの西洋美術受容の系譜を再構築することを試み、ある程度の枠組みを提示することができた。なお、ここで、「キリスト教美術」ではなく「西洋美術」とするのは、西洋の宗教美術をキリスト教という枠組のみで括ることは必ずしも正確ではないと考えられるからである。

研究成果の概要（英文）： The study of missionary art, especially in Latin America, India and China, from the period of the Counter Reformation (Catholic Reformation) to the peak of Western colonialism in the 19th century, has recently undergone significant progress. In contrast, however, research on the reception of Western religious art in Japan is still insufficient.

In light of this situation, this study aimed to comprehensively examine the reception of Western religious art in Japan in the context of the development of international missionary art research. By focusing on not only missionary art from the late 16th and 17th centuries, and from the late 19th and early 20th centuries, but also on the 'hidden Christian' art and non-Christian art influenced by missionary art in Japan, we were able to clarify to some extent the uniqueness of the reception of Western religious art, and by extension, the singularity of the reception of foreign culture in Japan.

研究分野：人文学

キーワード：対抗宗教改革 カトリック改革 キリシタン かくれキリシタン イエズス会 トレント公会議 ジョヴァンニ・コーラ 宣教美術

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

カトリック教会は1563年のトレント公会議第25会議において、礼拝および教化における聖像の重要性をあらためて確認した。そして聖母子像や救世主像、および聖人の受難や奇蹟の場面が多く描かれると同時に、初期キリスト教時代から奇蹟をおこすとして特別の崇敬をあつめた中世聖像の復興も計られた。その背景に聖像崇敬、聖人崇敬、およびそれらに起因する奇蹟を否定するプロテスタントに対抗する姿勢もあることは論をまたない。こうして登場した対抗宗教改革期(カトリック改革期)美術に関する最初の本格的な研究は、フェデリコ・ゼーリが1957年に上梓した『対抗宗教改革と絵画』(原語:イタリア語)である。同書の「時を超えた美術」という副題の通り、独特の普遍性をおびた美術としてはじめて積極的に評価されたのである。その普遍性とは、広く大衆も理解するこのできる、単純かつ平易で分かりやすい図像や構図によるものである。こうした特徴はトレント公会議を受けて登場した各種芸術理論の内容を反映したものであった。こうした西欧世界の対抗宗教改革期美術の受容は地域によって異なることが近年、明らかとなってきている。しかし、いまだ日本については多くのことが詳らかではなかった。

2. 研究の目的

申請者は、このような研究状況をふまえて調査を進め、日本の西洋宗教美術受容を国際的な宣教美術研究の展開という文脈の中において包括的に考察することを目的とした。なお、ここで、「キリスト教美術」ではなく「西洋美術」とするのは、西洋の宗教美術をキリスト教という枠組のみで括ることは必ずしも正確ではないと考えられるからである。中南米の宣教/植民美術や本研究で扱う“かくれ”キリシタン美術と同様に、西洋キリスト教美術においても様々な異教の残滓が垣間見られるのであり、本研究はこの点を重視した。造形美術を対象としているため、西洋宗教美術の中でも、聖像崇敬を信仰の手段として認めるカトリックの宣教美術が必然的に研究の中心とし、また、ロシア正教も19世紀後半の日本の宣教美術という文脈において射程に入れた。

3. 研究の方法

本研究は、16世紀から19世紀にかけての日本における西洋宗教美術受容史の再構築を目指す新しい試みであると同時に、対象が広範にわたることも事実である。本研究期間内で全てを解明することは当然のことながら困難であるが、これまで全く研究されていなかった分野も含めて、最終的に大まかな見取り図を提示することを目指した。

具体的には、研究グループメンバー各自による研究遂行の他、年に最低2回は公開研究会を開催し、各メンバーの研究進捗状況を検証するとともに研究の成果を一般に公開した。また、本研究に関しては対抗宗教改革期の西欧カトリック美術ならびに東アジア宣教美術の

研究の一線で活躍している数名の海外研究者をアドバイザーとした。アドバイザーとなる海外研究者の一人 Chiara Piccinini 氏（ミュンヘン大学教授）は現在、European Research Council の補助金を得てプロジェクト SACRIMA-The Normativity of Sacred Images in Early Modern Europe を立ち上げており、同プロジェクトと共同で 2019 年度には国際シンポジウムも開催した。

4. 研究成果

本研究によって 日本の宣教美術は西欧のカトリック改革（対抗宗教改革）美術の一環として議論できることに光をあてることができた。聖母子像や救世主像などキリスト教にとって最も重要であると同時に図像的には単純で明快な主題や、奇蹟をおこす中世聖像の複製も導入されたことが具体的に明らかとなったのである。

ところで、西欧世界の対抗宗教改革期美術の受容は地域によって異なることが近年、解明されてきている。宣教地のなかでも、西欧人が征服者であり支配者となった中南米では、上記の対抗宗教改革期美術の全てのカテゴリーがそのまま移植された。興味深いのは、奇蹟をおこす中世聖像の複製が特に重要視されたことである。被征服民を教化するだけでなく心理的にも支配するために巧みに利用されたのである。中南米の被征服民の支配者層も戦略的に奇蹟の聖像崇敬を導入した。その後、こうして中南米になかば強制的に定着した西欧美術は固有の進化を遂げていく。一方、文化的、宗教的に征服されることのなかったインドや中国においては、美しく描かれた聖母像や救世主像などが重要であった。また、改宗しなかったインドや中国の大半の人々は、対抗宗教改革期美術を、聖像ではなく学べき絵画技法として導入していった。本研究によって、日本における宣教美術の受容は基本的には後者、すなわちインドや中国における宣教美術の展開と類するものであることが明らかとなった。

さらに、日本では、世界の他の宣教地と異なり、ポルトガルを後ろ盾とするイエズス会系の宣教美術と、スペインが後押ししていた托鉢修道会系の宣教美術の両方が受容されたことをより鮮明に提示しえた。同時に、その政治的背景として、大航海時代に覇権を握ったポルトガルとスペインが 1529 年にサラゴサ条約を締結し、太平洋東部を縦に分割してそれぞれの帰属としたが、この分割線が日本の上を通過していたことを指摘しえた。日本には当初、ポルトガルを後ろ盾とするイエズス会が布教を進めていたが、その後、スペイン系の托鉢修道会がサラゴサ条約を口実として進出してきたのである。托鉢修道会は特に奇蹟の聖像を称揚していた。

本研究では同時に、日本で画学校を主催したイタリア人イエズス会士で画家のジョヴァンニ・コーラについて調査を進めているが、これまで彼の画学校の活動がマカオやマニラなど他の東アジアの国々とも関係あったことを明らかにした。

さらに、これらカトリック改革（対抗宗教改革）期の聖像が、禁教期にかくれキリシタンの「お掛け絵」においてどのように変容したかについても検証を進めてきた。そして、かくれキリシタンの人々にとっては「主観的」には西欧の聖像が根本的な変質をこうむること

なく残存していることを明らかにしてきた。これは、仏教、神道、大師信仰、キリスト教など、異なる信仰がそれぞれの形式を厳然と保持しながら共存していたことと関係していると思われる。しかし、こうして継承された西欧図像の要素の本来の宗教的意味は、時代が下るにしたがって解されることはなくなり、それ故に、日本古来の馴染みのある事物に自然と変化していったと推察される。ちょうど、かくれキリシタンのオラショの原型がラテン語聖歌であり、それが意味の分からないまま暗唱、口承され、今日まで伝えられてきた過程と対応しているといえよう。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 4件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Yoshie Kojima	4. 巻 なし
2. 論文標題 Fumi-e: Trampled Sacred Images in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Sacred Images and Normativity: Contested Forms in Early Modern Art, ed. Chiara Franceschini, Turnhout : Brepols	6. 最初と最後の頁 30-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Yoshie Kojima	4. 巻 なし
2. 論文標題 Orthodoxy and Acculturation of Christian Art in Japan: The Transformation of the Eucharistic Representation of 'Hidden' Christians	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Interactions between Rivals: The Christian Mission and Buddhist Sects in Japan (c.1549-c.1647), ed. Alezandra Curvelo, ANgelo Cattaneo, Pieterlen-Bern: Peter Lang	6. 最初と最後の頁 394-418
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Yoshie Kojima	4. 巻 27
2. 論文標題 Sacrament of Penance and Representation of Adam and Eve: Portal Sculpture of the Basilica of Sant'Antonino in Piacenza and the Cathedral of Lodi	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Hortus Artium Medievalium	6. 最初と最後の頁 316-322
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 児嶋由枝	4. 巻 66
2. 論文標題 日本のイエズス会画派と東アジア：マカオの《聖体顕示台を持つ大天使ミカエル》とマニラの《ロザリオの聖母》	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 早稲田大学大学院 文学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 531-542
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 児嶋 由枝	4. 巻 56
2. 論文標題 踏絵とトレント公会議後のイタリア美術 贖罪の図像およびミケランジェロ晩年の作品群との関係を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 美術史研究	6. 最初と最後の頁 31-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshie Kojima	4. 巻 11
2. 論文標題 Iconoclasm and Iconophilia in Cistercian Art: Cloister Sculpture of Fontfroide, Alcobaca and Chiaravalle della Colomba	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 IKON: Journal of Iconographic Studies	6. 最初と最後の頁 57-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 益田 朋幸	4. 巻 64
2. 論文標題 裁きの場としての聖堂-アチ (ジョージア) の聖ゲオルギオス聖堂の装飾プログラム-	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 早稲田大学大学院文学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 517-531
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秋山 聡	4. 巻 36
2. 論文標題 デューラーにおける「測定」重視の背景について: 「聖なる測定」に関するノート	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 美術史論叢	6. 最初と最後の頁 55-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷古宇 尚	4. 巻 11
2. 論文標題 ナポリ・アンジュー家の王妃たちと教皇 ハンガリーのマリアの造営活動を中心として	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 西洋中世研究	6. 最初と最後の頁 47-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 児嶋 由枝	4. 巻 56
2. 論文標題 踏絵とトレント公会議後のイタリア美術 贖罪の図像およびミケランジェロ晩年の作品群との関係を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 美術史研究	6. 最初と最後の頁 31-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 児嶋 由枝	4. 巻 なし
2. 論文標題 トレント公会議と美術	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 宗教改革の芸術世界 (書籍: リトン)	6. 最初と最後の頁 71-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮下規久朗	4. 巻 19
2. 論文標題 「ベルニーニの総合芸術」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Art Library	6. 最初と最後の頁 3-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮下規久朗	4. 巻 912
2. 論文標題 刺青と日本文化 - 危機に瀕する伝統美	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 世界	6. 最初と最後の頁 216-223
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮下規久朗	4. 巻 なし
2. 論文標題 召命と否認 - 伝サラチェーニ「聖ペテロの否認」をめぐって	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 イメージ制作の場 - 西洋近世・近代美術史における図像学と美術理論 (書籍: 中央公論美術出版)	6. 最初と最後の頁 169-188
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hisashi Yakou	4. 巻 8
2. 論文標題 The Formation of Landscapes in the Sakhalin and Kuril Islands," Actual Problems of Theory and History of Art	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Actual Problems of Theory and History of Art	6. 最初と最後の頁 433-438, 817
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計22件 (うち招待講演 7件 / うち国際学会 14件)

1. 発表者名 Yoshie Kojima
2. 発表標題 La ricezione e la trasformazione delle immagini devozionali occidentali in Giappone: la riproduzione della Virgen de la Antigua a Siviglia
3. 学会等名 Mondi connessi: aspetti dell'esotismo nel Seicento, University of Florence, Italy (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yoshie Kojima
2. 発表標題 The Pulpit of the Cathedral of Fidenza and Its Apocalyptic Connotations
3. 学会等名 57th International Congress on Medieval Studies, ICMS 2022, Sessions 6 , Drawing Together and Setting Apart: Pulpits and Screens in Medieval Italy, I (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yoshie Kojima
2. 発表標題 Christian art in East Asia and three port towns: Macau, Manila, and Nagasaki
3. 学会等名 Lecture, Asian Civilisations Museum, Singapore (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoshie Kojima
2. 発表標題 Christian spaces and private devotion in Japan: altars and images of the "Hidden Christians"
3. 学会等名 Early Modern Sacred Images in Europe and Japan; Contact, Comparison, Conflict: Partnership LMU Munich; Waseda University(LMU Munich) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoshie Kojima
2. 発表標題 Use of Flemish prints for the Namban screen representing European pastoral scene and its concealed meaning
3. 学会等名 Early Modern Sacred Images in Europe and Japan; Contact, Comparison, Conflict: Partnership LMU Munich; Waseda University, Tokyo(LMU Munich) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 児嶋 由枝
2. 発表標題 日本のイエズス会画派と東アジアの宣教美術 マカオ、マニラ、長崎
3. 学会等名 南蛮史料研究の新地平(早稲田大学 総合人文科学研究センター)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoshie Kojima
2. 発表標題 Riflessioni sul cantiere antelamico a Fidenza, Parma e Vercelli
3. 学会等名 Sant'Andrea di Vercelli e il Gotico europeo all'inizio del Duecento(Universita' del Piemonte Orientale, Vercelli)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akira Akiyama et. al.
2. 発表標題 The Mystical Mind as a Divine Artist: Visions, Artistic Production, Creation of Images through Empathy: An Introduction
3. 学会等名 5th CIHA World Congress: Motion: Transformation (国際美術史学会第35回世界大会)(Firenze, Italia)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akira Akiyama
2. 発表標題 On Vestments for Statues, from Comparative Perspectives
3. 学会等名 近世ヨーロッパと日本の聖なるイメージ Early Modern Sacred Images in Europe and Japan; Contact, Comparison, Conflict: Partnership LMU Munich - Waseda University, Tokyo(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 秋山 聡
2. 発表標題 聖像と聖なるモノのージェンシー：比較宗教美術史の試み
3. 学会等名 シンポジウム：『東西の聖なるもの：比較文化論を拓く』（青山学院大学）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hisashi Yakou
2. 発表標題 Shikotan: A Topos of Russian Fisheries and Maritime Landscapes
3. 学会等名 Annual Conference Centre for Port and Maritime History 'Art and the Sea', University of Liverpool (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hisashi Yakou
2. 発表標題 La rievangelizzazione del Giappone e le immagini di martirio del lontano passato
3. 学会等名 Convegno internazionale 'Eloquent Images: Evangelisation, Conversion and Propaganda in the Global World of the Early Modern Period', Universita' di Macerata (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoshie KOJIMA
2. 発表標題 Fumi-e: trampled images in Japan
3. 学会等名 Oberseminar: Forms and Norms in European Art and Beyond (Institut fuer Kunstgeschichte, LMU, Munchen) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yoshie KOJIMA
2. 発表標題 Reception of Western prints in Japan and Namban screens
3. 学会等名 The Sixteenth Century Society and Conference (SCSC) 2019 annual meeting (Albuquerque,USA) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 秋山聰
2. 発表標題 世界の中の熊野
3. 学会等名 地中海トーキング、第42回地中海学会大会、和歌山県新宮市社会福祉ホール
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 秋山聰
2. 発表標題 像なのか、容器なのか
3. 学会等名 国際ワークショップ『像内納入品研究の地平』（名古屋大学・ハーヴァード大学共催）、神奈川県立金沢文庫、（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 秋山聰
2. 発表標題 アルプス以北における〈古代〉の再生と〈古典〉
3. 学会等名 シンポジウム『西洋美術史における〈古典〉と〈古典主義〉』（名古屋大学人文学研究科附属人部位文化遺産テキスト学研究センター主催）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宮下規久朗
2. 発表標題 描かれた嘘-美術における虚構と真実
3. 学会等名 神戸大学文学部公開講座
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宮下規久朗
2. 発表標題 カラヴァッジョ芸術の革新性
3. 学会等名 関西シェイクスピア研究会、於関西学院大学大阪梅田キャンパス
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hisashi Yakou
2. 発表標題 "Martyrdom in Japan and Mission Politics of the Roman Catholic Church"
3. 学会等名 The West in Japanese Imagination / Japan in Western Imagination: 150 Years to the Meiji Restoration, Israeli Association for Japanese Studies (IAJS), Tel Aviv
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hisashi Yakou
2. 発表標題 "Le scene dell' Apocalisse e la cappella Loffredo nella chiesa trecentesca di Donnaregina a Napoli"
3. 学会等名 25th Annual International Scientific Symposium of the International Research Center for Late Antiquity and Middle Ages, University of Zagreb (IRCLAMA), Porec
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 谷古宇尚
2. 発表標題 フランススコ会と聖地 宣教と巡礼の間で
3. 学会等名 美術史学会第71回全国大会シンポジウム「聖地巡礼」, 東北大学(招待講演)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 共著(児嶋由枝他)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 南島原市	5. 総ページ数 111
3. 書名 ヨーロッパが日本に会ったとき アレサンドロ・ヴァリニャーノ	

1. 著者名 宮下 規久朗	4. 発行年 2020年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 208
3. 書名 一枚の絵で学ぶ美術史 カラヴァッジョ《聖マタイの召命》	

1. 著者名 ジョルジョ・ヴァザーリ、訳: 宮下 規久朗他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 中央公論美術出版	5. 総ページ数 448
3. 書名 美術家列伝 第4巻	

1. 著者名 谷古宇 尚 (共著)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 北海道大学出版会	5. 総ページ数 296
3. 書名 『かなしむ人間』, pp. 33-56 「母と子の悲しみ 聖母マリアとイエス・キリストの図像学」	

1. 著者名 宮下規久朗	4. 発行年 2018年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 354
3. 書名 聖と俗 分断と架橋の美術史	

1. 著者名 宮下規久朗	4. 発行年 2019年
2. 出版社 小学館	5. 総ページ数 271
3. 書名 そのとき、西洋では 時代で比べる日本美術と西洋美術	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	宮下 規久朗 (Miyashita Kikuro) (30283849)	神戸大学・人文学研究科・教授 (14501)	
研究分担者	秋山 聡 (Akiyama Akira) (50293113)	東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・教授 (12601)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	谷古宇 尚 (Yakou Hisashi) (60322872)	北海道大学・文学研究院・教授 (10101)	
研究分担者	益田 朋幸 (Masuda tomoyuki) (70257236)	早稲田大学・文学学術院・教授 (32689)	
研究分担者	志邨 匠子 (Shimura Shoko) (00299926)	秋田公立美術大学・大学院・教授 (21403)	削除：2020年10月9日

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 Early Modern Sacred Images in Japan and Europe: Contact, Comparison, Conflict	開催年 2019年～2020年
---	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関